

問題のコーカサスに就て

〔下〕

ラ・ブレンダ紙掲載

ペートル大帝が東洋との通する處に從へば「サソント」を商ルートを開く目的と同時に、一行が奪つて来た大蛇の守護の数字を示してゐる(年平均五百六十万トン)現在バク

ロッバとの中繼地としての位置を恢復する目的とを以軍

を進めた道もこの道である

所謂コーカサスの戸口を通じてヨンヤへ最初に入つた金を取りに來た連中のことを

カシコーカサスには金鎖はない。小額の石炭、銅、マンガ

はベルシャ國王からペートル大帝へ贈呈されたものであつた。

このセンセーショナルな出来事は、一七〇三年一月二日モスクワ市に發刊されたロシア最古の新聞紙の第一回に掲載された。この道は来るべき侵入の時に用いらるゝ道となるだらう。

それはアゾフ海から東方へ

の源に近いコーカサスの北部

静養地の主要群はクマ一河

の源に近いコーカサスの南部

現在では新バクの稱あるエム

バにて、すでに生産が開始さ

れた。それがウラルの山の

ものは鐵泉と硫黃質を含有

した水である。

その静養地とボルジヨウとアベ

ト(アゼルベイスハン)のガ

ソリンは世界最大の石油會社

であることを知つておくるとは

興味あることである。その油全

及設備に投資した額は十七億

ルーブルである。

バクーとバーツムを結ぶ油

送管は八百二十軒の延長を有

する。そして原油を黒海沿岸

に存在する精製所クラキン

へ送達してゐる。(完)

五、正午から午前零時半まで

四、其他獨伊亞ニース上映

アルベアルニース館

エスマラルダ街三三〇

三三一一二九六九六

三四一八二六六

三四一九六七〇

三四一九六七〇